

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

外科手術症例からみた潰瘍性大腸炎癌合併例における臨床病理学的検討

研究分担者 渡邊聡明 東京大学腫瘍外科 教授

研究要旨：長期罹患潰瘍性大腸炎患者において大腸癌合併は生命予後にも影響する重大な合併症である。しかしながら、その症例数は一施設では多くなく、多施設における検討が重要である。本研究では主要な専門施設における潰瘍性大腸炎合併大腸癌手術症例をレトロスペクティブに調査することにより、その臨床病理学的検討を行い、適切な治療方針やサーベイランス方法を明らかにすることを目的に研究を行う。

共同研究者

畑 啓介（東京大学腫瘍外科）
杉田 昭（横浜市立市民病院炎症性腸疾患センター）
池内浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座）
福島浩平（東北大学消化管再建医工学分野）
二見喜太郎（福岡大学筑紫病院外科）
楠正人（三重大学消化管・小児外科学）
藤井久男（奈良県立医科大学中央内視鏡超音波部）
水島恒和（大阪大学臨床腫瘍免疫学寄付講座）
板橋道朗（東京女子医科大学第二外科）
木村英明（横浜市立大学附属市民総合医療センター炎症性腸疾患（IBD）センター）
安藤 朗（滋賀医科大学消化器内科）
岡崎和一（関西医科大学内科学第三講座）
緒方晴彦（慶應義塾大学内視鏡センター）
金井隆典（慶應義塾大学消化器内科）
仲瀬裕志（京都大学内視鏡部）
中野 雅（京都大学内視鏡部）
長堀正和（東京医科歯科大学消化器内科）
中村志郎（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座）
西脇祐司（東邦大学社会医学講座衛生学分野）
穂刈量太（防衛医科大学校消化器内科）
松井敏幸（福岡大学筑紫病院消化器内科）
松本主之（岩手医科大学消化器内科消化管分野）
鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院内科）

A. 研究目的

潰瘍性大腸炎患者において大腸癌は生命予後を規定する重要な合併症であり、潰瘍性大腸炎合併大腸癌症例の臨床病理学的特徴を多数例で解析することが重要であるが、一施設における潰瘍性大腸炎合併癌症例数は多くない。したがって、多施設の症例の蓄積により潰瘍性大腸炎合併癌症例の特徴を明らかにすることにより早期発見方法や治療法を確立することが重要である。そこで、本研究では主要な専門施設においてレトロスペクティブに多発症例の検討を行うこととした。

B. 研究方法

(1) 方法

潰瘍性大腸炎合併大腸癌およびその前癌病変で手術または内視鏡を行った症例に関して、多施設に調査票を送付することで連結可能匿名化の状態でデータを収集し、その臨床病理学的な特徴に関してレトロスペクティブに調査を行う。

(2) 調査項目

性別、手術時年齢、手術時潰瘍性大腸炎罹患期間、原発性胆管硬化症の有無、大腸癌家族歴の有無、リンチ症候群の有無、手術時の潰瘍性大腸炎罹患範囲、癌発見動機、手術術式、

異時性癌の有無、病理標本全割の有無、sm 以深 癌の個数、sm 以深癌に併発する high grade dysplasia の有無、sm 以深癌併発する low grade dysplasia の有無、術 前に指摘されていなかった sm 以深癌の有無、潰瘍性大腸炎罹患範囲外の癌、狭窄の有無、炎症性ポリープ(10 個 以上)の有無、Neoplasia の範囲、TNM 分類、病理組織型、予後(生存、再発)

(3)倫理面への配慮

多施設共同研究に関しては、主任研究施設である東京大学においてまず倫理承認を行った上で、各施設で倫理申請を行った。また、個人情報に関しては各施設で連結可能匿名化を行った上で、個人情報を削除したデータを東京大学にて統計処理する。

C. 研究結果

主任研究施設を含めた 10 施設において倫理申請を行い、すでに 9 施設にて倫理承認が下りている。承認が下りた 9 施設から調査用紙が送付されてきており、最終的にすべての症例が揃ったところで解析を行う予定である。

D. 考察

本件研究は必ずしも一施設では十分な症例数とはいえない潰瘍性大腸炎合併大腸癌症例を本邦の主要な専門施設からの症例をレトロスペクティブに蓄積することでその特徴を明らかにしようとするものである。現在、すべての施設からのデータを待つ解析を行う予定である。

E. 結論

多施設における潰瘍性大腸炎合併大腸癌の症例をレトロスペクティブに解析することで潰瘍性大腸炎合併大腸癌の特徴が明らかとなることが期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1.論文発表

Hata K, Ishihara S, Watanabe T Successful Surveillance Colonoscopy for Patients with Ulcerative Colitis After Ileorectal Anastomosis. J Crohns Colitis 9(10) 937-8, 2015

Hata K, Kishikawa J, Anzai H, Shinagawa T, Kazama S, Ishii H, Nozawa H, Kawai K, Kiyomatsu T, Tanaka J, Tanaka T, Nishikawa T, Otani K, Yasuda K, Yamaguchi H, Ishihara S, Sunami E, Kitayama J, Watanabe T. Surveillance colonoscopy for colitis-associated dysplasia and cancer in ulcerative colitis patients. Dig Endosc Epub ahead 2015

2.学会発表

Hata K, Ishii, H, Anzai H, Yamaguchi H, Ishihara S, Sunami E, Kitayama J, Watanabe T Long-term results of pouchoscopy after ileal-pouch anal anastomosis in patients with ulcerative colitis. the Union of European Gastroenterological Week 2015 Madrid 2015 年 10 月 28 日

畑 啓介、安西紘幸、渡邊聡明
当科手術例からみた潰瘍性大腸炎サーベイランス内視鏡 第 89 回日本消化器内視鏡学会総会 名古屋 2015 年 5 月 30 日

畑 啓介、岸川純子、安西紘幸、大谷研介、安田幸嗣、西川武、田中敏明、田中潤一郎、清松知充、川合一茂、野澤宏彰、風間伸介、山口博紀、石原聡一郎、須並英二、北山丈二、渡邊聡明
潰瘍性大腸炎合併大腸癌の特徴
第 70 回日本大腸肛門病学会学術集会
名古屋 2015 年 11 月 14 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1.特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし